

## 新型コロナウイルス接触確認アプリ 「COCOA」のご紹介



現在、厚生労働省が公式提供する新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」は新型コロナウイルスの感染者と接触した可能性について、通知を受け取ることができる、スマートフォンのアプリです。アプリを利用することで、陽性者と接触した可能性が分かりPCR検査など保健所のサポートを早く無料で受けることができます。尚、現在個人でPCR検査を受ける場合は、自己費用が発生します。

このアプリはプライバシーを維持したまま、ユーザー同士の接触を記録します。もし過去14日の間で、距離1メートル以内に15分以上とどまっていた人が、のちに感染が分かれば通知してくれます。

ご自身のスマホにCOCOAをインストールします。インストールが完了したら初期設定を行います。Bluetoothを有効にします。

COCOAについて、もっと詳しく知りたい方はインターネットで「COCOA 厚生労働省」と調べていただくと、接触確認アプリ向け利用者Q&Aがあります。その中に、詳しく記載されていますので、気になる方は調べていただけたらと思います。また、わからない点や登録をしたいけどご自身で出来ない方は職員まで声を掛けてください。

# ひのき工房 ニュース（お知らせ）

## ～第11回 ひのき工房まつりの開催について～

今年度のひのき工房祭りは10月31日（土）に予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響で規模縮小をして10月30日（金）に開催します。その為、今年は利用者さんのみを対象とした開催とさせていただきます。（今回のお祭りは、御家族、関係機関、ご近所の方のご来場はお断りさせていただくこととなりました。ご理解の程、宜しくお願いします。）

## ～ひのき工房 インスタグラム始めました～

今年に入り、コロナの影響でイベントの中止が相次ぎ、利用者さんの心こもった製品を販売する機会が激減してしまいました。その為、数多くの方に「ひのき工房」を知って頂けるように、インスタグラム（SNS）で製品の紹介や活動報告を紹介していこうと思います。興味がある方は、是非ご覧になって下さい。

インスタグラム [hinokikoubo](#)

## ～密を避けた、避難訓練を実施～

9月28日に避難訓練を実施しました。今回は利用者さんには事前に伝えず、点呼もこまめに行い逃げ遅れていないかをすぐに報告するなど、より実際の災害を想定した訓練を行いました。その中でも、しっかりコロナ対策も行いながらも、スピーディーに避難を行うことが出来ました。今回の反省で、非常時の避難場所の確認し避難通路の改善点も見つかったため、障害物を移動させる等早急に対処しました。



# 2020 TOKYO パラリンピック (9)

## トライアスロン ～ きょうぎしょうかい 競技紹介 ～

トライアスロンは、2016年のリオデジャネイロパラリンピック大会で初めて、パラリンピック正式競技となりました。

トライアスロンは、1974年に初めてアメリカで競技大会が開催された比較的新しいスポーツです。シドニー大会（2000年）から正式競技となり、男女とも実施されています。東京2020大会では、新種目として男女による混合リレーが行われる予定です。

トライアスロンは、スイム（水泳）・バイク（自転車ロードレース）・ラン（長距離走）の3種目を、この順番で1人のアスリートが連続して行う耐久競技で、ラテン語の3を表すトライと、競技を意味するアスロンを組み合わせで名付けられました。



## ～ せんしゅしょうかい 選手紹介 ～

はた ゆかこ せんしゅ  
秦 由加子 選手

3歳で水泳を始め、10歳までスイミングクラブに通っていました。13歳の時に骨肉腫を発症し右脚を大腿部より切断しました。

2010年アジアパラ競技大会などで、水泳日本代表を経験するも2012年ロンドンオリンピック出場は叶いませんでした。2013年からトライアスロンに転向し、その後急成長を遂げて2016年のリオオリンピックに初出場、日本選手最高の6位の成績を残しました。現在は、東京パラリンピックの表彰台を目指して頑張る練習に取り組んでいます。

# 2020 TOKYO パラリンピック (10)

## 車いすフェンシング ～ 競技紹介 ～

車いすフェンシングは、1960年の第1回ローマパラリンピック大会から正式競技として行われており、特にヨーロッパで盛んな障害者スポーツです。日本では1998年に日本車いすフェンシング協会が設立されました。日本選手は、2000年のシドニーパラリンピック大会から2008年の北京パラリンピック大会まで、3大会連続で出場を果たしました。

フェンシングには、戦い方や相手のどこを攻撃すると得点になるかという有効範囲などによって、フルーレ、エペ、サーブルという3種目があります。フルーレは、“攻撃権”を尊重する種目。試合中、攻撃権を持った選手に攻撃チャンスが与えられるルールがあり、攻撃権争いから勝負が始まります。

脊髄損傷や下肢切断による、下肢障害のある人を対象とする車いすフェンシングは、「ピスト」と呼ばれる装置に固定した競技用車いすに座り、上半身だけで競技します。相手を剣で突くとポイントになるなど、ルールは立って行うオリンピックのフェンシングとほぼ同じ、フットワークが利用できない代わりに、上半身を巧みに使った戦い方が要求されます。一瞬の判断で勝敗が決する、非常に攻撃的な側面もあり互いに剣が届く近距離での攻防は、一般のフェンシングにも負けない迫力があります。



## ～ 選手紹介 ～

ふじた みちのぶ せんしゅ  
藤田 道宣 選手

1986年熊本県生まれ。高校でフェンシングをはじめ、19歳の時に事故で下半身麻痺となりましたが、車いすフェンシングで挑戦を始め、昨年のW杯で3位に入賞しました。

藤田選手は、フェンシングの名門・平安高校（京都）出身。1学年上の先輩には、2008年北京オリンピックで個人フルーレ、2012年ロンドンオリンピック団体で銀メダルを獲得した太田雄貴選手がいます。